



写真提供：福岡市港湾局

能古島周辺の貝るい達 (3) 泊 秀治

能古島周辺貝類の盛衰

湾奥の能古島は東に広大な博多湾があり、交通、貿易港として賑わいをみせている。能古島から西には今津湾があり、瑞梅寺川河口として干潟が見られる。南東に早良平野を流れる室見川河口があり、アサリ・シジミ・シラウオなどがとれ、潮干狩りなどのレジャー地として市民に親しみをもたれている。北部は志賀島との海峡として多くの貨客船の出入り航路となっている。また波の荒々しい玄海灘に接している為、岩礁地帯となり、わずかに東、南部に砂浜海岸が拡がり、そこには海流による打ち上げが多く集まっている。能古島の、この様な棲息地によってみられる貝類を四年間ではあるが観察、採取し、三十年前にこの島で調査された岡本正豊氏の採取リストと比べてみた。著しく減少しているものを一部挙げて

てみると、

岩礁地帯では

オトメガサガイ ヨメガカ

サガイ クズヤガイ

ウノアシガイ

砂浜の打ち上げでは

クマノコガイ フミガイ

クジャクガイ クボガイ

バイ シオフキガイ

ホクロガイ

干潟からの打ち上げでは

カニモリガイ ヘナタリ

フトヘナタリ イソコナ

その他の貝では

マツムシガイ シボリガイ

マルヘノジガイ カモガイ

これに対して逆に増えている貝もある。

湾内の底棲貝類の異常繁殖でシズクガイやホトトギスガイが海底一面に異常発生、アサリが激減したとか。百道浜には小指の爪位の稚貝が大量に打ち上がって死滅している。これを見た時、筑肥線で汽車通勤をしていた頃、今津

貝名	成員直径	寿命
アゲマキ	六八ミリ	二年
トリガイ	九〇ミリ	二年
サルボウガイ	四六ミリ	三、四年
アサリ	四五ミリ	二、三年
アカガイ	八三ミリ	四年
アコヤガイ	八三ミリ	八年
オオノガイ	六二ミリ	八年
クロアワビ	一六〇ミリ	七年
カガミガイ	六六ミリ	一〇年
ハマグリ	一〇〇ミリ	一〇年

湾方面の海面に茶色（赤潮）の帯状の流れが蛇の様に見える。博多湾での貝の寿命はそれぞれ種によって違い、その時代の環境によっても異なってくる。また、およそ左記の表でもわかるように小さな貝も成員になるまでには長い年月

を必要とする。

大量に死滅した稚貝を見るにつけ、また食卓にのぼるのは何年先になるのであろうかと考えさせられる。

能古周辺の海から姿を消してゆく貝たちのさや

時代の変化と共に、滅亡、減少してゆく貝類も自然環境保護と共に憂慮される事態に至っている。

絶滅種 絶滅危惧 危急 激減 減少 希少 現状維持 など…

日本版レッド・データ（黒田氏の評価による）の貝類リストからみるに能古島周辺の貝類の名前も挙がっている。そのなかから絶滅危惧種をいくつか挙げてみる。

- イソシジミガイ
- オオノガイ
- イボウミニナ
- ミルクイガイ
- イボキサゴ
- ウストンボガイ
- ピョウブガイなど…

この中には子供の頃によく目

にした貝も多い。昨今の貝類の激減理由として次のようなことが挙げられる。

- ・自然淘汰され消滅
- ・海水の汚染により消滅
- ・地震洪水などの災害により消滅
- ・環境変化により異常繁殖、絶滅
- ・動物同志の抗争による絶滅
- ・外来種の移植繁茂

災害による盛衰も考えられるが、人為的な工事、港湾の改築、埋め立てなどによる減少がある。

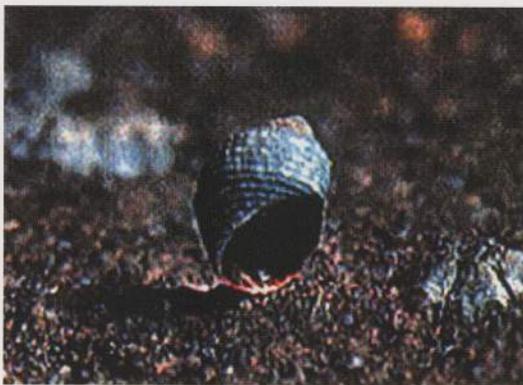
今、世界的にもワシントン条約によりレッド・データができ、種の保存、環境保護が叫ばれている。

未来永劫潮騒の高鳴り

それぞれの貝類は隠された棲息状態、発育過程、また異なった体質構造をもち、環境に適応しながら懸命に生きていく。

例えば写真のアラレタマキピガイは夏の暑さを少しでも柔らげる為、熱せられた岩に

接する面が極力少なくなる様に工夫している。



熱く焼けた岩表面のアラレタマキピガイ写真「海辺の生き物（成美堂出版）」から

この様な巧妙さや、生きざまの不思議さ、また神秘さに驚嘆し畏敬の念さえかきたてられる。

鋭いセンス、機能的な形、多様な色彩をも兼ね備えている貝類は、まったく人類が模倣することすらできかねるようである。

この角は何故ここにあるのか、何故こんな色になるのか、この貝は動くのか、何を食べ

ているのか、何故このように重くなるのか、等々限らない疑問がでてくる。こうした貝たちを手にとつて眺めているうちに海の生活を思い浮かべ海への郷愁に浸るのである。

貝塚などからみて人間と貝との出会いは古く、食糧はもとより装飾品としての利用もされてきた。

時に滅び、時に繁殖しながら代々続いて今日まできているが、それらの継承していく過程をこれからも解明していくかねばなるまい。

最近では有用な品種には、養殖や海底農場など種の保存につながる事業もある。自然環境保護のもと海産生物の保存、増殖と現存海洋の再利用開発にも目を向ける必要がある。

市民が今まで以上に浄化、保護にと関心を持ち、自然から受ける恩恵を維持しながら豊かな住みよい湾にしていかなねばなるまい。

「完」



泊 秀治氏「能古島 大泊にて」

◆ 事務局から

「能古島周辺の貝るい達」は今回で最終稿となりました。執筆をお願いしました泊秀治氏は主に二〇〇〇年から二〇〇二年にかけて島内を踏査し、二五一種もの貝（陸産貝を除く）を蒐集されました。採集品は当博物館に寄贈され、展示されています。この中には今日ではほとんど採取することができなくなった貴重な標本も含まれています。

応募締切迫る

第八回 能古の風フォトコンクール 募集要項

テーマ 「能古の風」(能古島に係る人・物・自然等制限なし)

サイズ モノクロ、カラーとも四ツ切に限る (ワイド四ツ切可) 組写真不可

賞
グランプリ 一点 五〇、〇〇〇円・賞状
準グランプリ 一点 三〇、〇〇〇円・賞状
特別賞 一点 二〇、〇〇〇円・賞状
能古島賞 一点 一〇、〇〇〇円・賞状
入選 六點 一〇、〇〇〇円・賞状

その他・応募者全員の作品を平成十七年十月七日より十一月三十日まで当館にて展示。

作品は未発表及び発表予定のないものに限り、住所・氏名(ふりがな)・電話番号・題名(ふりがな)・撮影場所を明記した紙を同封。

入選以上は、表彰式出席、原簿提出。作品はすべて返却しない。

送り先 〒八一九一〇〇一二
福岡市西区能古五二二一二
能古博物館

問合せ 「能古の風」フォトコンクール係
☎ (〇九二)八八三一二八八七

発表 平成十七年十月上旬入選者以上、電話にて直接通知

締切 平成十七年九月三十日

蘇峰の碑

神戸女子大学名誉教授
林田愼之助

福岡の西公園の展望台に立つと、すぐむこうは、玄界灘である。

その展望台の一隅に、大きな自然石でできた石碑が建っている。徳富蘇峰の書で、二行二十八字が刻まれていた。念のためにメモ帳に写しとつてみると、こう読めた。

のなかに「伏敵門頭 波は天を拍つ」という句があつたのをおぼえている。

蘇峰の七言絶句はざつとこういう意味の詩だと了解できた。

人傑地霊といふことは、古くは、唐の王勃の「滕王閣序」に出現するが、近くは、乃木希典の「神州」の詩にも、

人傑地霊古筑前
覇家台接水城連
淡翁佳句吾能誦
伏敵門頭波拍天

人傑地霊、古の筑前にあり
覇家台は水城に接して連なる
淡翁の佳句 吾は能く誦す
伏敵門頭 波は天を拍つ

人物がすぐれ土地柄もすぐれていたのが、昔の筑前の国であり、それは、覇家台(博多)が太宰府にある水城と接してつらなる海防の重要な拠点であつたのが、理由である。淡翁、つまり広瀬淡窓の佳句を、わたしはよくくちずさんだものだが、そ

「説くを休めよ 区々たる風物の美を。地霊人傑は、是れ神州にあり」というのをふまえるであろう。
水城の跡は、いまものこつているが、奈良時代に、夷狄の襲来に備えてきざられた巨大な井堰土塁であつた。太宰

府の都府楼のちかくに、筑紫平野で一番狭隘な地勢をえらんで構築されている。博多は、この水城につながる重大な海防の拠点であつた。

「伏敵門頭」というのは、博多の宮崎宮の雄偉なる楼門にかかげられた、龜山上皇の篆額「敵国降伏」の四文字を指している。元寇の国難にさいして宮崎宮に祈願のために献



蘇峰の碑



石 碑 文 字

納されたものであつた。

さて西公園の石碑の裏面にまわつてみると、そこには、「土氣を振り作す為めに、之を建つ。昭和十六年春」とあり、この石碑の建立者として、「頭山満、広田弘毅」の二人の名が並列して、刻まれていた。

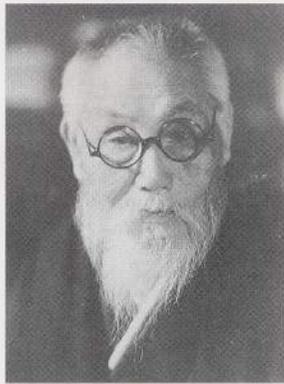
昭和十六年といえば、第二次世界大戦はその年の十二月八日にはじまつている。その半年ほど前、和平にむけて日米交渉は続行されていたが、その破綻は目に見えていた。頭山満は、それから三年のちの昭和十九年に病死し、広田弘毅は戦後、戦犯として巣鴨に囚監され、一言の弁解もせずに絞首台の露と消えた。

彼らもまた筑前が生んだ近代の人傑といえるが、頭山満は玄洋社を設立して、孫文と交遊し、大アジア主義をとんでいた。その思想的系譜のなかに、広田弘毅があり、中野正剛がいた。筑前の人士の氣概を振りおこすために、蘇峰の石碑を建てた頭山満、広

田弘毅の願望の背景には、このようなさしめまつた時代の状況があつた。

すでに彼らの大アジア主義に反するかたちで、日中戦争は進行し泥沼にはまっていたが、もし米英と戦さがおこり、アジアを欧米の植民地主義のくびきから解放することができるとなれば、アジアが共存共栄してゆける新しい道が拓けるかもしれないという認識が、頭山、広田に共通するものとしてあつて、この碑の建立に向かわしめたのであろう。

昭和十八年の初頭、軍部主動の強硬策によつて、アジア全土に戦火はひろがって、しだいに戦況も悪化しはじめた。この実情を知つた衆議



「頭山 満翁」写真提供 玄洋社記念館

院議員の中野正剛は、当時の軍事内閣の首相東條英機にたいして、「戦時宰相論」を書いて痛烈な批判をあびせた。それを掲載した朝日新聞は即刻発禁となつた。やがてその年の十月二十一日、中野は憲兵隊に逮捕された。中野が割腹自刃して果てたのは、それから六日後の十月二十七日のことであつた。中野正剛の自殺は、たぶん頭山満の病死をよめたのであろう。

筑前城下作

伏敵門頭浪拍天
当時築石自依然
元兵没海蹤猶在
神后征韓事久伝
城郭影浮春浦月
絃歌声隱暮洲煙
昇平有象君看取
処処垂楊繫買船

伏敵門頭 浪は天を拍つ
当時の築石 自から依然たり
元兵の海に没す 蹤猶お在り
神後の征韓 事久しく伝う
城郭の影浮ぶ 春浦の月
絃歌の声隱る 暮洲の煙
昇平象有 君看取せよ
処処の垂楊 買船を繫ぐ

広瀬淡窓が、「伏敵門頭、浪は天を拍つ」という句を織り込んで「筑前城下の作」と題する七言律詩を詠じたのは、

今なおのこつており、神功皇后の三韓征伐の事情はここにもながい間語り伝えられてきた。筑前黒田藩の城郭の影を

まだずいぶんと若い時期であつた。寛政九年、十六歳ではじめて博多に遊学をはたしたのち、すこし余裕ができて、宮崎宮の参詣となつたおりの作である。

「敵国降伏」の額をかかげた宮崎宮の楼門の近くの浜辺に、打ち寄せる浪は天をたたき高く高い波しぶきをあげ、元寇当時の防塁用の築石は、昔の面影をとどめてそのままである。元軍の兵士が沈んだ海は、



「敵国降伏の扁額」写真提供 宮崎八幡宮

「昇平」の気配は、君だつてすぐよみとることができし、あちこちの柳の枝が垂れるあたりに、商用の船「買船」がつかがれている。

淡窓の遊学の目的は、亀井南冥、昭陽を師として学ぶことにあつた。当時、南冥の主宰していた藩費甘棠館は廃校に追いこまれ、南冥自身も塾居謹慎の状態であつた。その原因は、寛政異学の禁で、朱子学以外の学問は異端の学として禁止され、徂徠学の古文辞を標榜していた南冥と、そ

能古博物館だより

の藩費は、幕府の禁令を極度におそれた外様大名黒田藩の手でつぶされたのである。淡窓が遊学を志したとき、その亀井学派は私塾としてかろうじて存続はゆるぎされていたが、他国からの入塾はかたく禁じられていた。淡窓は筑前秋月の医師の養子となり、別姓を名のつて越境入学したのだから、淡窓の博多遊学には、彼らのつよい意志がはたらいていたといえる。

淡窓は南冥から詩を、昭陽から経学を、それに父子二人の師の学問と生きざまから多くのことを学んだ。のちに淡窓が、「咸宜園」という教育の場で、数多くの有為なる人材を育成することができたのは、実学——活きた学問を淡窓に吹き込んだ亀井学派の影響に負うところが大きい。

亀井学派の逸材の一人に、広瀬淡窓をあげるのには、誰しもがするところであるが、実は亀井学派の思想は、亀井南冥から昭陽、昭陽から、その子



〔高揚乱〕写真提供 玄洋社記念館

の陽州、陽州からその弟子で人參畑の女先生と呼ばれた医師の高揚乱、高揚乱から頭山満、頭山満から広田弘毅、中野正剛という人脈の中で、脈々といかされてきたのである。

実学、活きた儒学を志した南冥は、「太宰府旧址の碑」なる一文を草しているが、これは菅原道真以来の旧蹟が荒廃いちじるしい状態におかれているのを嘆き、これを大事に保存したいと企てたものである。さらには、太宰府が古来西南蛮夷の侵攻に備えてはたした役割の重要性を、その碑文の末尾で強調している。ほかにも、南冥が辺防を論じたものに、「南冥十策」がある。しかしながら、いまだ鎖国太

平の夢をむさぼっていた筑前黒田藩にとつては、この南冥の辺防策は、余計な企てとしかうつらなかつたようで、結局、碑の建立は実現しないままに終っている。

淡窓は、「太宰府の碑」をふくめて、南冥の海防策について、なにもふれていないが、その志は聞知していたであろう。嘉永六年、日本全土を震撼させた黒船来航のさいに、淡窓は松平府内侯に、「論語三言解」という一文を草して、

「論語」顔淵篇のなかに、子貢が政治の要諦をたずねたの

にたいして、孔子がこたえた一章がある。「食を足し、兵を足し、民をしてこれを信ならしめよ」という三言であった。つまり食糧を充分に確保し、兵備をおこたることなく、民衆に情報を公開し、政治にたいする不信感をとりのぞくよ

うにすることが肝要だと孔子は説いたのである。この孔子の三言にもとづいて、各藩の諸侯は、幕府への貢納金、貢納物をとりやめ、参勤交代の経費を削減するなどして、辺防策につとめるべきだとしたのが、淡窓の考え方であった。淡窓にいわせると、(四方を海でかこまれた日本は、どこから異国船が入ってきてもおかしくない地理的狀況におかれている。そのさい、異国船がなんの目的でやってきたのか、それによつて幕府はどう対処しようとしているのか、民衆にかくしだてしないで、情報を伝え、幕府への信頼を保てるようにしておくべきだ)というのである。淡窓の最晩年、七十二歳の献策であった。



〔広瀬淡窓〕写真提供 日田市

亀井南冥が、博多郊外の姪の浜の隠宅で焚死したのが、文化九年三月二日のことである。南冥変死のくわしい事情が、日田の淡窓のもとにもたらされたのは、その月の十九日であった。淡窓はいそぎ筑前博多に向っている。時に昭陽は、父の不慮の変死とあって蟄居中であり、会うことすら許されなかった。とりあえず、地行西町の浄満寺にあった南冥の生前墓に詣でている。そのとき、作られたのが、

「南冥先生の墓に謁す 二首」

謁南冥先生墓二首
 欲見李元礼 李元礼に見えんと欲す
 孤墳蕭寺中 孤墳 蕭寺の中
 唯余松柏樹 唯だ松柏樹の
 謾説起清風 謾説として清風を起すを余すのみ

と題する五言絶句である。後漢の李元礼ともいべき南冥先生にお目にかかりたいと思つてやつてきたが、先生のお墓はぼつんとひとつものさびしい寺のなかに立っていた。ただその松



「亀井南冥先生」墓碑

や柏の樹に、あたかも先生の清高な品格をしのばせるような清風が、謾説、さわさわと吹きわたっているばかりであった。亀井という南冥先生の姓は、婦女子でさえ知っており、道哉という先生のあざなは、子供さえも

そらんじていた。それほど高名な先生であったが、その昔、中国の硯山において墮涙の碑と化した羊詒のように、さむざむとした山に建つひとかけらの石となつてしまわれた。その苔むし

た先生の墓石にむかつて、したたり落ちる涙をとどめることはできなかった。

婦女知亀井 婦女すら亀井を知り
 兒童誦道哉 兒童すら道哉と誦す
 寒山一片石 寒山一片の石
 千淚墮莓台 千淚莓台に墮つ

李元礼こと李膺は、後漢末の清流派知識人。当時政治腐敗の元凶であった宦官の濁流支配に敢然として抵抗し、獄死した節義の名士であった。淡窓は、寛政異学の禁による南冥の廃黜をこの李膺にかさねみたととき、世の不条理にたいする憤りをおぼえ、涙を押さえることができなかつたのであろう。

※この文は「創文No.四七〇(創文社発行)から転載させていただきました。

筑前亀門烈伝 其の五
 甘棠館興亡記間・改

今年も「筑前亀門烈伝」の季節がやってきました。シリーズ「其の一」で上演された亀井南冥が再び主役です。パンフレットを同封しております。ぜひお出かけください。

上演 九月二十九日〜十月二日

事務局だより

季誌「能古博物館だより」の発行が、たいへん遅れました事、お詫び申し上げます。今回の地震発生に際し、会員の方々をはじめ多くの皆様から施設や職員の皆様への被害の心配、問合せなどをいただきました。また屋根の補修など、島の方々をはじめ皆様の素早い対応のお陰で長期休館を避けることができました。感謝致しております。施設への被害は被りましたが収蔵品が全て無事であったことに安堵しております。ただ福岡市指定文化財である登窯の被害は甚大であり、余震も少なくなつた今から本格的に取り掛からねばと思つている次第です。

能古博物館協賛会・友の会

(敬称略・順不同)

〔法人協賛会員〕

- 浄土真宗本願寺派浄福寺
(医原土井病院)
ワタキエセイモア機
(佛)福岡メテイクルリス
(佛)アルアンドエム
(佛)クリニカルデータ
サレビス
福岡板板郵便局
鬼野信孝
福岡赤坂郵便局
戸田正義
日清医療食品(株)
福岡支店
(佛)福岡経営管理センター
(佛)サンコー
(医)恵光会原病院
(佛)西日本シティ銀行
和支店
(佛)西日本シティ銀行
千代町支店
(佛)西日本シティ銀行
香椎支店
(佛)西日本シティ銀行
土井支店
(佛)西日本シティ銀行
福岡流通センター
支店
(佛)西日本シティ銀行
新宮支店
(佛)西日本シティ銀行
箱崎支店
(佛)西日本シティ銀行
久山支店
(佛)サンネット
(佛)福砂屋
(佛)笠松会有吉病院

御寄付者芳名

- 巽 雄一様 「ありがとう」
西野トミエ様 「ありがとうございました」
赤井 定夫様 「ありがとうございました」

関 敏巳様

「ありがとうございました」

花の苗をたくさんいただきました。

〔協賛会会員〕

〔友の会会員〕

- 松本盛二 ③ 南誠次郎 ⑤ 中山重夫 ⑩ 菅直登 ⑧ 早船正夫 ⑩ 岡部六弥太 ⑩ 星野万里子 ⑧ 吉村雪江 ⑧ 安松勇一 ⑦ 上田浩二 ⑨ 高田浩一 ⑨ 桑野次男 ⑩ 藤木充子 ⑫ 和田宏子 ⑬ 行成静子 ⑫ 片岡洋一 ⑮ 石川文之 ⑧ 都筑久馬 ⑦ 古賀清子 ⑩ 宮崎集 ⑩ 西野政恵 ⑩ 岡本金蔵 ⑦ 三宅金子 ⑮ 星野九枝 ⑬ 林十九枝 ⑬ 宮徹男 ⑭ 宮友儀 ⑭ 織田高代治 ⑩ 上田博 ⑭ 鶴田スミ子 ⑦ 塚本美和子 ⑤ 伊藤秀彦 ⑤ 寺岡秀賢 ④ 原田種美 ⑤ 奥田稔 ⑦ 石橋清樹 ⑬ 井上敏枝 ⑤ 隈丸清次 ⑤ 吉富とく代 ⑤ 大山宇一 ⑥ 葉山貞志 ⑩ 川島真雄 ⑪ 洋子 ⑬ 久芳正隆 ⑨ 半田耕典 ⑥ 武藤瑞こ ④ 庄山雅敏 ⑥ 吉田洋一 ⑤ 永岡喜代太 ④ 神戸純子 ④ 渡辺美津子 ⑤ 山田博子 ⑩ 佐藤泰弘 ④ 前田静子 ④ 飯田昇 ⑤ 神戸聡 ③ 田里朝男 ⑦ 吉田一郎 ③ 池田修三 ⑨ 岩谷正子 ③ 小川正幸 ② 榎藤菊朗 ② 増田義哉 ④ 宮嶋熊太郎 ⑨ 土井千草 ① 松坂洋昌 ④ 永毛実 ① 福永博通 ④ 古川映子 ⑩ 松井俊規 ⑦ 衛藤泰輔 ⑦ 伊藤泰輔 ⑦ 西村蓬頭 ⑧ 執行敏彦 ④ 渡辺千代子 ② 後藤和子 ⑦ 脇山涌一郎 ⑦ 川浪由紀子 ⑪ 川田啓治 ③ 足達輔治 ⑤ 中村ひろえ ⑦ 古賀謹二 ⑦ 野尻敬子 ③ 大野幸治 ⑨ 青木良之助 ⑦ 神崎憲五郎 ⑦ 金子柳水 ⑨ 佐野至 ⑧ 井手親栄 ⑩ 宮崎春夫 ⑩ 丸山碧山 ⑦ 山崎元治 ⑧ 小山元治 ⑧ 吉瀬宗雄 ⑮ 吉瀬正昭 ⑬ 西山義昭 ⑬ 市丸善一郎 ⑪ 豊島嘉穂 ② 守瀬孝二 ① 御田祥子 ⑮ 甲本達也 ⑬ 本政宏 ⑥ 鳥井裕美子 ② 濱北西久 ⑩ 大塚博久 ⑦ 辻本雅史 ⑤ 杉浦五郎 ⑦ 中野晶子 ⑨ 野崎逸郎 ⑩ 大野英彦 ⑤ 野崎露 ⑤ 住本直之 ⑫ 前田敏也子 ⑮ 村山吉廣 ⑫ 村上直也 ⑫ 間所ひさ子 ⑮ 伊藤英邦 ① 鹿毛光子 ① 吉賀朝生 ② 林正孝 ② 井上雷策 ② 田中寛治 ② 白井伊達雄 ① 土屋伊達雄 ① 小堀百合子 ① 原礼子 ① 原康二 ① 原牧子 ① 杉みどり ① 山下清久 ② 杉原正毅 ② 大久保昇 ② 党隆雄 ⑧ 福澤昌弘 ⑤ 小嶋幸雄 ⑥ 福本孝行 ⑦ 樋口陽一 ② 木下淳二 ⑦ 西山義昭 ⑬ 酒井力 ⑧ 島義博 ⑥ 田上紀子 ⑧ 中畑孝信 ⑧ 西島道子 ⑮ 西嶋洋子 ⑧ 村上靖朝 ⑧ 嶽村魁 ⑧ 木原光男 ⑦ 庄野健次 ⑦ 鈴木惠津子 ⑥ 富永紗智子 ① 吉村陽子 ⑦ 松本雄一 ⑦ 石橋善弘 ⑦ 徳重謙治 ⑩ 岩淵謙治 ⑩ 岸本正勝 ② 武田正勝 ② 武田初代子 ② 近藤雄文 ⑥ 西嶋克司 ⑨ 榊島政信 ③ 横田武子 ③ 富田英寿 ⑥ 野上哲子 ① 益尾天嶽 ⑥ 小橋正治 ① 石橋順子 ③ 西原正俊 ① 松原友誠 ③ 小川順子 ③ 木血敦代 ② 矢野義志 ① 丸山敏子 ① 江崎小二郎 ① 吉安蓉子 ⑤ 村上牧 ⑥ 小谷修一 ⑥ 阿部昌弘 ⑤ 永石順洋 ③ 重松史郎 ② 藤吉マツエ ⑤ 亀井勝夫 ② 山本光玄 ④ 山川龍一 ④ 吉開史朗 ③ 田中靖高 ① 香立スミエ ① 藤瀬三枝子 ⑤ 野見山実 ④ 頃末隆英 ② 友原静生 ② 森口信子 ① 山本信行 ① 尾澤健 ④ 井上陽一 ④ 寿美鈴子 ④ 矢野鈴子 ④ 藤崎和子 ④ 宮崎正直 ④ 原田雄平 ④ 高根幸子 ③ 高根義典 ③ 山口優美 ② 横口澄江 ② 石橋武子 ③ 松原順子 ③ 西原正俊 ① 小川順子 ③ 木血敦代 ② 矢野義志 ① 丸山敏子 ① 江崎小二郎 ①

●能古博物館ご案内●
開館 9:30~17:00 (入館16:30まで)
休館日 12月1日~2月末日の冬季のみ休館
入館料 大人400円・高校生以下無料
交通 姪浜 能古行渡船場→フェリー(10分)
→能古(徒歩10分)→博物館
〒819-0012 福岡市西区能古522-2
☎(092) 883-2887
FAX(092) 883-2881
ホームページ http://www.nokonet.com/museum
メールアドレス museum@nokonet.com

※新規の御加入(先号以後、平成17年9月10日現在)を、記載いたしておりますので、何卒ご芳名をご確認ください。
ありがとうございました。
自然と文化の小天地創造
能古博物館の会
協賛会(個人年間1万円(何口でも可)
(法人年間3万円(何口でも可)
友の会(年間3千円(何口でも可)
(館の活動、館誌購読と催事企画に参加)
館維持、資料収集、施設整備等の
資金援助を受ける
納入方法 郵便振替 01730960970
財団法人 能古博物館
右の会費受領は、その都度本誌に掲載、以後会費相当期間を名簿にします。